

## 海外安全対策情報（2020年1月～3月：ナミビア）

### 1 治安情勢及び一般犯罪の傾向

（1）当国は政治的に落ち着いており、これまでテロや特定外国人を標的とした誘拐は確認されておらず、アフリカの中では比較的安全と言われている。他方、首都ウィントフックでは、日中であっても路上強盗等の一般犯罪が頻発しており、邦人を含め、外国人観光客が少なからず被害にあっている。

（2）最新の犯罪統計（安全保障省統計：2014年～2016年）によれば、国内全体の刑法犯認知件数は年々増加の傾向にあるが、例年、認知刑法犯の種類に大きな変化はなく、年末は都市部の犯罪が地方へ分散する等パターン化している。月別の刑法犯認知件数については、1月の件数が最も少なく、2月～4月に増加し、5月～6月に減少、7月～9月に多少変動があるが横ばい、10月～年末にかけて増加、12月に最も多くなる。認知刑法犯の上位は、住居侵入、強盗、盗難、車上荒らし、暴行等が挙げられる。

（3）当国の失業率は、2014年の27.9%から2018年は33.4%と増加傾向にある。それに伴い若年層による金銭目的の一般犯罪が増加傾向にある。標的となりやすい物はカメラや携帯電話等の電子機器である。当地で発生した携帯電話の盗難被害件数は、2014年の4,446件から2016年の6,075件と27%増加している。

（4）環境・観光省のデータによれば、当国を訪れる邦人渡航者数は、2015年に2,192人、2016年に3,957人、2017年は4,044人と年々増加している。日本旅券盗難被害は2016年に6件、2017年に9件、2018年は1件、2019年は3件であった。邦人旅行者に対する強盗等の刑法犯認知件数は2018年に4件、2019年は11件であった。

（5）安全・保安省が発表した統計によると、2018年5月から7月にかけてナミビア全土で107件の武装強盗が発生しており、他方、上記同期間に銃器の無許可所持が91件記録されている。当地の治安当局は年々増加する銃器の所持、盗難や持ち主の管理不十分による紛失に起因する、銃器関連の犯罪増加を懸念している。

### 2 外国人に対する犯罪の事例

（1）2020年1月1日、時間不明、ラグジュアリーヒルのドクターテオベングリラブ通りで、南アフリカ人住居への侵入強盗事件が発生した。犯人は、ガレージのドアから侵入し、絵画、装飾品、及び家具を持ち去った。

（2）2020年1月1日、15時頃、エロス地区のシャンツェンウェグ通りでドイツ人の車両

が盗まれる事件が発生した。カントリークラブ・リゾートエリアのクラブフェベルクで、盗まれたバッテリーと共に投棄された車両が警察によって発見された。

(3) 2020年1月3日、時間不明、エロス地区のロバート・ムガベ通りで、ポルトガル人が路上強盗の被害にあった。犯人は、被害者のハンドバッグから11,000ナミビアドル（邦貨約77,000円）相当の財布、現金、イヤリング等を持ち去った。

(4) 2020年1月18日、18時30分頃、エロス地区のオロフ・パルム通りでカナダ人住居への侵入強盗事件が発生した。犯人は携帯電話、及び現金18,000ナミビアドル（邦貨約126,000円）相当を持ち去った。

(5) 2020年1月26日、10時15分頃、クライン・ウイントフックのオルバン通りで路上強盗事件が発生した。2人の犯人はナイフでルクセンブルク人を脅し、電子機器、指輪、時計等、合計38,400ナミビアドル（邦貨約268,800円）相当を奪って逃走した。

(6) 2020年1月26日、13時頃、サザンインダストリー地区のショッピングモールの駐車場で、オーストラリア人が車上荒らしの被害にあった。犯人は車中の40,000ナミビアドル（邦貨約280,000円）を持ち去った。

(7) 2020年1月30日、2時30分頃、アウアスブリックで住居侵入強盗事件が発生した。9mmピストル、鉄パイプ、及びナイフで武装した5人の犯行集団は、アパート敷地の後方に設置された電気フェンスを切断、玄関の小窓を破壊して各住居に侵入した。住人の南アフリカ人1人、ルーマニア人2人、国籍不明の男性1人をひもで縛り、バッグ、財布、パスポート、運転免許証、電子機器等を奪い、逃走した。

(8) 2020年1月27日、16時～22時の間、ヘニッツバーグホテルに宿泊中のイギリス人が現金を盗まれる事件が発生した。犯人は26,500ナミビアドル（邦貨約212,000円）を奪い、逃走した。

(9) 2020年2月2日、0時15分頃、クライン・ウイントフックのアンダーソン通りでドイツ人が車上荒らしの被害にあった。犯人は駐車中の被害者の車に侵入し、指輪、ネックレス等31,100ナミビアドル（邦貨約185,500円）相当を持ち去った。

(10) 2020年2月18日、14時頃、エロス地区、ロバート・ムガベ通りの洗車場でアンゴラ人が現金を盗まれる事件が発生した。被害者は米ドルとユーロが入った財布を車中に残したまま、サービスステーションに車両を預けた。洗車後の車両を受け取った後、外国為替

事務所で現金が不足していることに気づいたため、再度洗車場に戻り、洗車場のマネージャーに確認を行ったが、被害者の洗車を担当した4人の従業員全員が現金の窃取を否定した。盗まれた現金は900ユーロと300米ドル、合計で邦貨約137,200円であった。

(11) 2020年2月21日、18時頃、エロス地区のリリエンクロン通りでフランス人が車上荒らしの被害にあった。犯人は冷蔵庫と車のバッテリー合わせて22,000ナミビアドル(邦貨約154,000円)相当を持ち去った。

(12) 2020年2月23日、12時30分から13時の間、クライン・ウイントフックのアンダーソン通りで路上強盗事件が発生した。犯人はドイツ人2人をナイフで脅し、携帯電話、バックパック、クレジットカード、現金600米ドル、55ユーロ、及び800ナミビアドルの合計10,800ナミビアドル(邦貨約75,600円)相当を奪い、逃走した。

(13) 2020年2月26日、15時40分頃、クライン・ウイントフックのネルソンマンデラ通りで中国人が車上荒らしの被害にあった。犯人は携帯電話、衣類、及び書類の合計106,000ナミビアドル(邦貨約742,000円)相当を持ち去った。

(14) 2020年3月7日、15時30分頃、クライン・ウイントフックのネルソンマンデラ通りで車上強盗事件が発生した。窓ガラスを壊され、被害者の左側の席に置かれていた12,000ナミビアドル(邦貨約84,000円)の入ったバッグを奪い、逃走した。

(15) 2020年3月7日、17時30分頃、エイビスロードで路上強盗事件が発生した。犯人は中国人に暴行を加え、iPhone8、及び家の鍵の合計12,000ナミビアドル(邦貨約84,000円)相当を奪い、逃走した。

(16) 2020年3月11日、12時20分頃、エロス地区のカーン通りで、ドイツ人住居への侵入強盗事件が発生した。犯人はパソコン、家庭用品等を被害者の車両に積み、そのまま同車両で逃走した。

### 3 薬物・危険ドラッグについて

(1) ナミビアは、違法薬物や危険ドラッグ等がブラジルから南アフリカを経てアンゴラへ密輸される際の経由地として利用されている。

(2) 2018年6月15日、当館から西へ約300kmの港町ウォルビスベイで、ブラジル、及び南アフリカを経由してきた412kgのコカイン(ナミビア史上最高額、市場価格206,000,000ナミビアドル、邦貨約20億円)が押収された。

(3) 2019年2月11日, ナミビア警察広報担当官は, ナミビア警察・麻薬取締部が過去4か月間で違法薬物9,500,000ナミビアドル(邦貨約7千6百万円)相当を押収, 423名を逮捕したと発表したうえで, 「これまでナミビアは違法薬物の中継国と認知されていたが, もはや中継国でなく消費国である。」と述べている。

#### 4 交通事故

交通事故による死者数は年々増加の傾向にあり, 2011年の492件から2016年の731件と5年間で33%増加している。交通事故発生の主な原因は, スピード超過, 不注意, 無謀運転等である。2016年のデータによれば, 横転事故が全体の交通事故の29%を占め, 次いで追突事故が27%, 歩行者との接触が23%となっている。直線で片側一車線という道路も事故の大きな要因のひとつである。大型幹線道路で高齢者や初心者, 又は大型トラックが低速で走行していることに起因する無謀な追い越しも交通事故発生要因の一つである。旅行者が移動中, 飲酒運転による信号無視を伴う無謀運転の事故に巻き込まれ死亡したケースも確認されており, 信号が青でも, 交差点に進入する際は左右の確認をする等, 注意が必要である。最新の情報によれば, 2019年の交通事故報告件数は3,398件, 死者547人となっている。

#### 5 テロ・爆弾事件発生状況

当該事件の発生は認知していない。

#### 6 誘拐・脅迫事件発生状況

外国人が被害者となった身代金目的の誘拐事件は認知していない。

#### 7 対日感情

ナミビア人の日本人に対する感情は良好。

#### 8 日本人安全対策のためにとった具体的措置

在留邦人へのお知らせの発出

○2020年1月2日付け, 邦人旅行者の横転事故発生

○2020年2月5日付け, 旅行者を狙った犯罪の増加(了)